

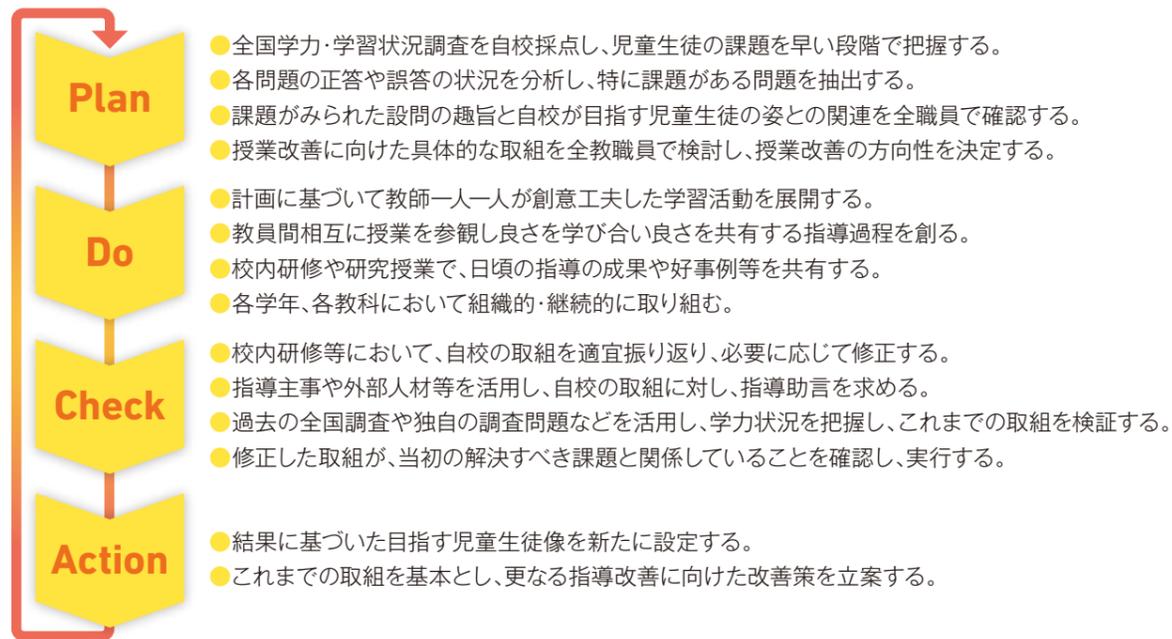
検証協力校の主な取組

- 目標設定が曖昧な研究 → 目指すべき児童生徒の姿が具体的な研究
- 一人の教師だけが取り組む研究 → チームで共同して取り組む研究(全職員が課題を共有している)
- 研究会当日だけ力を注ぐ研究 → 事前研究、研究会当日、事後研究を一体的に取り組む研究
- 該当教科、該当学年、学校だけの研究 → 教科や学年、学校を超えた研究
- 互いを褒め合い、気遣いの多い協議会 → 改善点や課題に対し、代案を出し合い互いを高める協議会

「質の高い共同研究」→「学力向上」

検証協力校は、これまでの取組を見直し、自校の課題から目指す児童生徒の具体的な姿を設定して校内研究に取り組んでいます。そのことから、目標やねらいを明確にした授業づくりにつながり、学校体制で学力向上のためのPDCAサイクルを確立する取組が行われています。

全国学力・学習状況調査を活用した校内研究の進め方



○「学力・学習状況」検証協力校

【葛南地区】八千代市立南高津小学校・八千代市立八千代台西中学校・八千代市立村上東中学校
 【東葛飾地区】流山市立流山北小学校・柏市立西原中学校・我孫子市立白山中学校
 【北総地区】香取市立栗源小学校・旭市立干潟小学校・八街市立八街中央中学校
 【東上総地区】大網白里市立瑞穂小学校・茂原市立茂原中学校・いすみ市立岬中学校
 【南房総地区】鴨川市立西条小学校・木更津市立真舟小学校・市原市立千種中学校

○担当指導主事

【葛南地区】葛南教育事務所 指導主事 川口斉之
 【東葛飾地区】東葛飾教育事務所 指導主事 林部理絵
 【北総地区】北総教育事務所 指導主事 丸 庸仁 菅澤純夫 吉田純一
 【東上総地区】東上総教育事務所 指導主事 白土俊幸
 【南房総地区】南房総教育事務所 指導主事 榎本正信

ホームページアドレス

<http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gakuryoku/2019/r1kennsyougijyou.html>
 千葉県教育庁教育振興部学習指導課学力向上室 ☎043-223-4057

ホームページには、検証協力校が実践した指導資料を掲載中!!

令和元年度「学力・学習状況」検証事業

全国学力・学習状況調査を活用した指導改善サイクル実践例



本資料の使い方

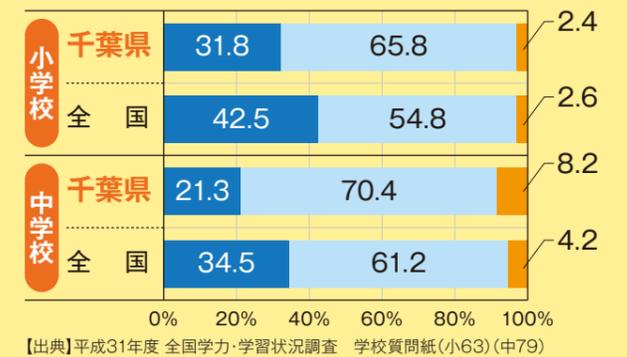
全国学力・学習状況調査の結果から課題を抽出し、指導改善プランの作成や課題解決のための手立てを掲載してあります。

自校の課題解決のための参考として、本資料を校内研究や研修等で活用してください。

千葉県の課題

質問:「平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した」
 回答類型:「よく行った」「行った」「行っていない」

💡 「よく行った」と回答した学校は、小・中学校ともに全国に比べ10ポイント以上下回っています。



実践紹介 葛南地区

八千代市立村上東中学校の実践

「子供の学び合いの場を作り出す授業づくり」

【現状】

設問内容の意味や問題場面を理解することができない生徒が多くみられる。

【手立て】

- ・各授業において、用語の意味をはじめ、課題を解決する上で必要な既習事項を丁寧に確認、共有する。
- ・話し合い活動を充実させ、生徒が協働的に課題解決に向けて思考を進め、理解を深められるようにするとともに、理解が不十分な生徒には個別に支援する。

【実践】単元名「平面図形」

既習事項の確認・共有



導入時に、既習の作図の性質を丁寧に確認し、全員のスタートラインをそろえる

協働的な活動場面



男女2名の班を作り、全員が納得してわかるまで協力して話し合い学習を進める

実践紹介
東葛飾地区

流山市立流山北小学校の実践

「課題解決に向けた系統的な指導を行い、授業改善を図る」

【現状】

問題場面における二つの数量の関係を正しく数直線上に表したり、読み取ったりすることに課題がみられる。

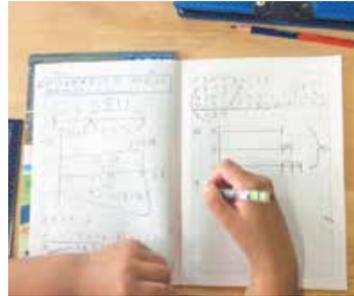
【手立て】

- ・各学年の数直線(数を線上に表したものを含む)を活用する単元において、学年間の指導の系統性や児童の実態に応じて教材を提示する。
- ・「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム「まとめあげる」の中の「学んだことを確実に身に付ける」ために、適用問題に確実に取り組ませるとともに、習得した知識・技能を活用できる学習を単元の中に位置付ける。
- ・授業研究や校内研修のテーマを焦点化して実践する。

【実践】「数直線の読み取り・活用」



第2学年「かけざん(1)」
倍の意味、倍にあたる量



第4学年「ちがいに目をつけて」
二つの数量の差に着目し、関係構造を図に表す



第5学年「単位量当たりの大きさ」
二つの数量の関係を数直線に表し、演算決定・立式、他者に説明するために役立てる



実践紹介
北総地区

八街市立八街中央中学校の実践

「記述式問題へ意欲的に取り組めるための授業づくり」

【現状】

数学科の「関数」領域に課題がみられる。特に「記述式」の問題形式に課題が多く、無解答も多くみられる。

【手立て】

- ・「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムを自校の授業モデルとして活用する。
- ・「自分の言葉で学習のまとめを書く」活動を取り入れる。
- ・自他の考えを交流させる活動の中で、自分の考えや友人の意見をノートに記述する場面を積極的に取り入れ、表現力を高める。

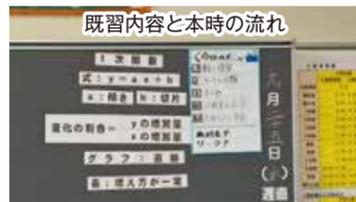
【実践】単元名「一次関数」

〈活用の展開〉

- ・既習事項の一つ一つをカードで示し、全体で確認しながら、本時の学習に必要な事項を引き出す。
- ・個人及びグループ活動での相互説明による分類を経て、さらに全体でその理由を添えて整理・分類を進める。

〈まとめ〉

- ・本時の学習内容を全体で振り返った後で、「自分の言葉で学習のまとめを書く」学習活動を行う。
- ・まとめを共有する段階で、友人のまとめと相違があっても自分のまとめは消去せず、2種類のまとめを書き単元末に再確認するか、授業後に授業者へ個人的に確認を求めるものとする。



自分の言葉でのまとめ

実践紹介
東上総地区

茂原市立茂原中学校の実践

「生徒一人一人が問題解決への見通しをもち、表現できる指導法の工夫」

【現状】

事象を数学的に捉え、解決の方法を数学的に説明する問題に無解答が多くみられ、問題解決の見通しをもてない生徒が多い。

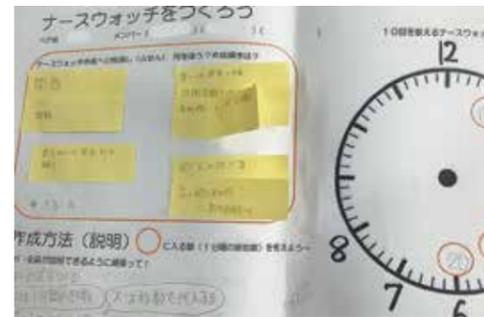
【手立て】

- ・既習の学習内容や方法を振り返る場面を工夫することで、問題解決の見通しをもたせる。
- ・考えを共有する場面を工夫し、一人一人の考えを広げる。(思考ツール等の利用)

【実践】

- ・前半で既習内容を振り返り、本時の後半に向けてそれらを活用して問題解決をする授業構成にした。
- ・解決に使えるような既習事項を付箋やつぶやき欄に記入し、考えを共有した。(思考の可視化)

<見通しを持たせる場面>



考え方を付箋に書き出す

秒数が分かれば脈拍数が決まるから、関数関係だよね。比例しているかな。



付箋を基にペアで解決方法を話し合う

表にまとめて、特徴を調べれば分かるはずだよ。そこから式も作れると思うけど。グラフはどうしようか。

実践紹介
南房総地区

木更津市立真舟小学校の実践

「対話活動を通して考えを深め合う授業づくり」

【現状】

- ・全国学力・学習状況調査の結果から、記述式問題において無解答が多く、自分の考えを表現することに苦手意識がある。
- ・ペアやグループ活動の中で、相手の意見を聞き、互いに考えを深め合えるような学び合いができていない。

【手立て】

- ・誤答を生かして原因等を児童同士で話し合わせるなど、考えを揺さぶる場面を設定する。
- ・3人組で互いの考えを伝え合い、意見交換した中からより良い考えを選択し、学級全体に広げる。
- ・グループごとに異なる練習問題を解いて、グループで問題の解き方を共有させる。

【実践】単元名「比例・反比例」



考えを揺さぶる場面を意図的に設定する



グループで問題の解き方を共有させる